

議員1期目の主な歩み

2010年

- 2月 初質問
東予港・三島川之江港・高速道路無料化について
- 3月 経済産業委員会初質問
1. 愛媛県のコンパクト電気自動車
2. 西条の周年いちごプロジェクト
3. 中小企業対策
- 4月 第2回事業仕分け
衆参の一年生議員の公募者による、公益法人の事前調査をすることになりました。私は経済産業省所管部分を担当。
- 5月 成長戦略 インバウンド報告書を取りまとめ、経産大臣に提出 総合特区制度創設を提言
- 12月 「ふるさと応援・医療再生フォーラム」出席
愛媛県の深刻な医師不足を受け、関東圏の医師の方々を招く活動をしています。

2011年

- 1月 岡田克也幹事長（当時）とともに東予港 / 今治造船西条工場を視察
その結果、全国に103港ある重要港湾から43港の重点港湾に選定されました。東予港（西条地区）における500m防波堤整備が事業化されました。
- 2月 予算委員会にて質問
1. 獣医学部の定員増員
2. 地域の医師確保に向けた施策
3. 2017年えひめ国体に向けての施設整備
- 3月 東日本大震災被災地へ現地支援活動開始
- 7月 経済産業委員会にて質問
「再生可能エネルギー法案」について
- 10月 厚生労働委員会で質問
1. 被災地派遣を踏まえて、被災者の雇用
2. 日本の人口問題と子ども手当
3. 地域の医師不足
- 11月 民主党政調会厚生労働部門会議「年金ワーキングチーム」設置、長妻昭座長のもと事務局長に

2012年

- 3月 元厚生労働大臣長妻昭氏と年金改革講演会を開催
- 4月 厚生労働委員会にて質問
1. 「最低保障年金」が高齢者の「生活保護」を減らす
2. 年金改革を与野党が一致協力できるための環境づくり
- 6月 「社会保障と税の一体改革法」の共同提案者となり、衆参両院で国会答弁に立つ
- 8月



白石洋一（しらいしろういち）プロフィール

1963（昭和38）年生まれ、49才。
今治西高校、東京大学法学部を卒業し、日本長期信用銀行に入行する。企業内留学でカリフォルニア州立大学バークレー校経営大学院でMBAを、同行シカゴ支店在職中に米国公認会計士（CPA）を取得する。
その後の長銀破綻を受け、監査法人KPMGに転職するも、ニューヨーク事務所に勤務していた2001年に9・11事件に遭遇。これを機に政治を志すようになり、稲盛財団「イナモリフェロー」（2期生）に参加。
「人が育つ愛媛」づくりを目指し、KPMGを退職、愛媛に帰郷する。2009年、第45回衆議院議員総選挙において愛媛3区より初当選を果たし、今日に至る。

- 【主な役職】
2009年～2010年
○衆議院 経済産業委員会 委員
○衆議院 政治倫理審査会 幹事
○民主党 総合特区規制改革小委員会 主査
- 2011年～現在
○衆議院 社会保障と税の一体改革に関する特別委員会 委員（～2012年9月）
○衆議院 東日本大震災復興特別委員会 委員（同上）
○衆議院 厚生労働委員会 委員
○民主党 年金ワーキングチーム（作業部会）事務局長
○民主党 愛媛県総支部連合会 代表
○臨海部立地産業の競争力を推進するための超党派議連 幹事



地域の生活を原点に

白石洋一 よういち よういっちゃんねる



2009年8月30日。私は、「皆様と一緒に新しい社会づくりへの一步を踏み出したい」との決意で「政権交代」を訴え続けました。その結果「愛媛3区」の衆議院議員として国政に送り出して頂き3年3ヶ月が経ちました。民主党政権は「格差の無い、誰もが『希望の大輪』を咲かせる社会」を実現するため、一歩ずつ着実に政策実現に努めると共に、これまでの財政赤字をはじめとする「負の遺産」を背負い、果敢に変革への扉を拓く挑戦を続けました。国民の皆様お一人おひとりに対し、劇的な変革の光景を生み出すには至っていないかもしれませんが、しかし、確かな「静かなる変革」は起きています。その歩みを止めた瞬間に、時代の時計の針を逆回転させることとなります。私は闘います。
この国と地域の輝きある未来を願い、皆様の御期待と想いを背負い、1期目の実績と経験を踏まえ、次世代の為、私は挑戦の道を歩み続けます。
皆様方のご支援、お力添えを是非に私にお寄せ下さい。

政治をめざすきっかけ

私が政治の世界に飛び込んだ大きなきっかけは 9・11 事件でした。ニューヨーク世界貿易センタービルから100mも離れていないところに私と妻、当時6才の息子、3才の娘と住むアパートがありました。

つんざく悲鳴が聞こえ、ビルからは人が飛び降りていきました。よほど熱かったのでしょう。3～4人手をつないで落ちる人、窓にしがみついていたが力尽きて人形のように落ちる人、手足を泳ぐように動かして落ちる人・・・私は見つめるだけで何も出来ませんでした。

一夜明け、私は感謝の気持ちで包まれました。「こんな目にあっても、家族も自分も生きている。頂いた命、世のため人のために捧げたい」と強く思いました。アパートはぐっちゃぐちゃで半年戻れませんでした。避難していたアパートで生き方を根本から見つめ直しました。偶然目に付いたのが稲盛和夫氏のリーダー養成塾、イナモリフェローの募集広告でした。自分の想いを書いて応募し、採ってくれました。

稲盛氏は経営に誠実、謙虚、思いやり、感謝という価値を重んじます。当たり前のこと、全ての宗教も大事とされていること。しかし、実践はとても難しいことです。稲盛氏は27才の時に創業しましたが、その頃から一緒に働いている方から、「稲盛さんは創業時からずっと同じことを言っていた」と聞き、京セラを大企業までにした稲盛氏は本物の人物だと思いました。

その稲盛氏は政治の重要性を説かれます。そして当時の政治を嘆かれます。私は政治の世界に入ることを決意しました。それから妻を説得し、子供を言い聞かせてふるさと愛媛に戻ってきました。それが2006年の夏でした。



地域の生活を原点に なぜ民主党なのか 安心できる社会に向けて

理念

私は民主党の根本である立党の理念に感銘し民主党でやっていく決心を固めました。それは「**私達は既得権益の構造から排除された方々の立場に立ちます**」というものです。自分には力もやる気もあるのに、何かの「仲間」ではないことによって、取引や関係づくりの機会から排除されてしまったこと。そのような見えない壁が「既得権益の構造」であります。そこから阻害、排除されている方々の立場に立つという民主党の理念。私の生き方としたいことがここにありました。

めざす社会

めざす社会は格差是正をする社会。それも効果的に格差是正をする社会です。まず自由経済を肯定し受け容れます。そこに努力した人、上手にやった人とそうでなかった人との差ができるのは必然です。差ができるところに励みを感じるのも自然です。そこで格差の是正も闇雲に行うのではなく、重点を絞ります。それは、「若い人、次の世代に格差を持ち越させないこと」格差の固定化を防ぐ、連鎖を断ち切るべく格差是正を行うこと、です。

つまり、若い人が結婚し希望するだけの子どもを持つことができるようにすること。子ども達は親の経済状況が乏しくても意思と能力さえあれば、しっかりとした教育を受けることができ、這い上がる

ことができる。そのような社会です。
失業や事業の失敗があっても、ひいてはそのまま老後を迎えることになっても、最低限の生活のメドがたつ。そのことに確信をもてるようにする。だからこそ、失敗へのおそれ、おびえを振り切って、思い切って挑戦ができる。大きくグローバルな自由経済に挑むことができる。リスクはあっても必要な投資や消費をすることができるようにすること。そこに社会保障と経済活性の好循環が生まれます。

社会保障による再分配で最低限の生活を守る

人が生まれてから死ぬまで、社会から支えられることと、社会を支えることがあります。社会全体でも税金と社会保障による資産の再分配が行われています。



年金を守る！輸出を伸ばす！

年金を守る

年金の第一の役割は、老後の最低限の生活を保障することです。これを守ることが非常に難しくなっています。年金生活者のうち、低年金で独り身の方々が増えてくるからです。年金生活者にとってこれからの生活が不安です。また今、年金保険料を払っている現役の方々にとっては、少子高齢化が進行する中で一体自分達の番になって、自分達の分があるのか不安になっています。つまり、年金は大事なだけあって不安の元にもなっています。このことが日本社会を萎縮させ、縮小させています。

ですから私は、年金事務局長を志願して仰せつかって取り組んでいるところです。新しい年金、つまり一元的で最低保障年金のある制度設計の大枠が出来ました。問題を解決するため、与野党を問わず案を持ち寄って国民会議で政策合意していくべきだと思います。

輸出を伸ばす！

雇用の為に、この地でモノ作りをして、輸出し資源代金を稼ぐ為の基盤作りを支援するのが政治の使命です。現在の日本は資源の乏しい国で、石油などを海外から輸入しなければなりません。その為に、輸入先を確保し、シーレーンを守り、代金として恒常的に毎年20兆円相当の外貨を稼ぐ必要があります。

それだけの外貨は「①まずモノ作りをし輸出をして大方の獲得、②サービス収益や投資収益で補完」することが現実的です。日本人のモノ作り力は強みであり、過去から持続してきた競争優位性だからです。

ですから日本は貿易立国であることを宿命づけられているといえるでしょう。雇用を守る為にも高度な経済連携を求めていくべきと考えます。愛媛は果樹農業県ですがかんきつを外に売っていく、打って出ていくことによってむしろ活路が拓け、地域が活性化するので。

格差を放置するのではなく、全ての格差をなくすのでもない、大きな政府にはしません。子どもを増やし、国力を高め、効果的に格差是正をする社会をめざしていこうではありませんか！

民主党はこれまで多くの離党者を出しました。「消費税上げる前にやることある。」主としてこのことを巡ってです。その気持ちも解らない訳ではありません。「やるべきこと」を党のなかで職責を通じて少しでも実現に向けて努力するか、外に出て別に道を探すかの違いです。私は、中からしっかり変えていく道を選びました。厳しい将来に向け議員が率先して、痛みを乗り越える。議員定数削減は必ず実行しなければなりません。

以上、何をやるにしてもまずは私自身が大きな難関を乗り越えなければなりません。挑戦する私になにとぞお力を貸して頂きますようお願い申し上げます。

白石 洋一

地域の生活を原点に なぜ民主党なのか 安心できる社会に向けて

理念

私は民主党の根本である立党の理念に感銘し民主党でやっていく決心を固めました。それは「私達は既得権益の構造から排除された方々の立場に立ちます」というものです。自分には力もやる気もあるのに、何かの“仲間”ではないことによって、取引や関係づくりの機会から排除されてしまったこと。そのような見えない壁が「既得権益の構造」であります。そこから阻害、排除されている方々の立場に立つという民主党の理念。私の生き方としたいことがここにありました。

めざす社会

めざす社会は格差是正をする社会。それも効果的に格差是正をする社会です。まず自由経済を肯定し受け容れます。そこに努力した人、上手にやった人とそうでなかった人との差ができるのは必然です。差ができる場所に励みを感じるのも自然です。そこで格差の是正も闇雲に行うのではなく、重点を絞ります。それは、「若い人、次の世代に格差を持ち越させないこと」格差の固定化を防ぐ、連鎖を断ち切るべく格差是正を行うこと、です。

つまり、若い人が結婚し希望するだけの子どもを持つことができるようにすること。子ども達は親の経済状況が乏しくても意思と能力さえあれば、しっかりとした教育を受けることができ、這い上がることができる。そのような社会です。

失業や事業の失敗があっても、ひいてはそのまま老後を迎えることになっても、最低限の生活のメドがたつ。そのことに確信をもてるようにする。だからこそ、失敗へのおそれ、おびえを振り切って、思い切って挑戦ができる。大きくグローバルな自由経済に挑むことができる。リスクはあっても必要な投資や消費をすることができるようにすること。そこに社会保障と経済活性の好循環が生まれます。

社会保障による再分配で最低限の生活を守る

人が生まれてから死ぬまで、社会から支えられることと、社会を支えることがあります。社会全体でも税金と社会保障による資産の再分配が行われています。



年金を守る！輸出を伸ばす！

年金を守る

年金の第一の役割は、老後の最低限の生活を保障することです。これを守ることが非常に難しくなっています。年金生活者のうち、低年金で独り身の方々が増えてくるからです。年金生活者にとってこれからの生活が不安です。また今、年金保険料を払っている現役の方々にとっては、少子高齢化が進行する中で一体自分達の番になって、自分達の分があるのか不安になっています。つまり、年金は大事だけあって不安の元にもなっています。このことが日本社会を萎縮させ、縮小させています。

ですから私は、年金事務局長を志願して仰せつかって取り組んでいるところです。新しい年金、つまり一元的で最低保障年金のある制度設計の大枠が出来ました。問題を解決するため、与野党を問わず案を持ち寄って国民会議で政策合意していくべきだと思います。

輸出を伸ばす！

雇用の為に、この地でモノ作りをして、輸出し資源代金を稼ぐ為の基盤作りを支援するのが政治の使命です。現在の日本は資源の乏しい国で、石油などを海外から輸入しなければなりません。その為に、輸入先を確保し、シーレーンを守り、代金として恒常的に毎年20兆円相当の外貨を稼ぐ必要があります。

それだけの外貨は「①まずモノ作りをし輸出をして大方の獲得、②サービス収益や投資収益で補完」することが現実的です。日本人のモノ作り力は強みであり、過去から持続してきた競争優位性だからです。

ですから日本は貿易立国であることを宿命づけられているといえるでしょう。雇用を守る為にも高度な経済連携を求めていくべきと考えます。愛媛は果樹農業県ですがかんきつを外に売っていく、打って出ていくことによってむしろ活路が拓け、地域が活性化するのはです。

格差を放置するのではなく、全ての格差をなくすのでもない、大きな政府にはしません。子どもを増やし、国力を高め、効果的に格差是正をする社会をめざしていこうではありませんか！

民主党はこれまで多くの離党者を出しました。「消費税上げる前にやることある。」主としてこのことを巡ってです。その気持ちも解らない訳ではありません。“やるべきこと”を党のなかで職責を通じて少しでも実現に向けて努力するか、外に出て別に道を探すかの違いです。私は、中からしっかり変えていく道を選びました。厳しい将来に向け議員が率先して、痛みを乗り越える。議員定数削減は必ず実行しなければなりません。

以上、何をやるにしてもまずは私自身が大きな難関を乗り越えなければなりません。挑戦する私になにとぞお力を貸して頂きますようお願い申し上げます。

白石 洋一

地域の生活を原点に なぜ民主党なのか 安心できる社会に向けて

理念

私は民主党の根本である立党の理念に感銘し民主党でやっていく決心を固めました。それは「私達は既得権益の構造から排除された方々の立場に立ちます」というものです。自分には力もやる気もあるのに、何かの「仲間」ではないことによって、取引や関係づくりの機会から排除されてしまったこと。そのような見えない壁が「既得権益の構造」であります。そこから阻害、排除されている方々の立場に立つという民主党の理念。私の生き方としたいことがここにありました。

めざす社会

めざす社会は格差是正をする社会。それも効果的に格差是正をする社会です。まず自由経済を肯定し受け容れます。そこに努力した人、上手にやった人とそうでなかった人との差ができるのは必然です。差ができる場所に励みを感じるのも自然です。そこで格差の是正も闇雲に行うのではなく、重点を絞ります。それは、「若い人、次の世代に格差を持ち越させないこと」格差の固定化を防ぐ、連鎖を断ち切るべく格差是正を行うこと、です。

つまり、若い人が結婚し希望するだけの子どもを持つことができるようにすること。子ども達は親の経済状況が乏しくても意思と能力さえあれば、しっかりとした教育を受けることができ、這い上がることができる。そのような社会です。

失業や事業の失敗があっても、ひいてはそのまま老後を迎えることになっても、最低限の生活のメドがたつ。そのことに確信をもてるようにする。だからこそ、失敗へのおそれ、おびえを振り切って、思い切って挑戦ができる。大きくグローバルな自由経済に挑むことができる。リスクはあっても必要な投資や消費をすることができるようにすること。そこに社会保障と経済活性の好循環が生まれます。

社会保障による再分配で最低限の生活を守る

人が生まれてから死ぬまで、社会から支えられることと、社会を支えることがあります。社会全体でも税金と社会保障による資産の再分配が行われています。



年金を守る！輸出を伸ばす！

年金を守る

年金の第一の役割は、老後の最低限の生活を保障することです。これを守ることが非常に難しくなっています。年金生活者のうち、低年金で独り身の方々が増えてくるからです。年金生活者にとってこれからの生活が不安です。また今、年金保険料を払っている現役の方々にとっては、少子高齢化が進行する中で一体自分達の番になって、自分達の分があるのか不安になっています。つまり、年金は大事なだけあって不安の元にもなっています。このことが日本社会を萎縮させ、縮小させています。

ですから私は、年金事務局長を志願して仰せつかって取り組んでいるところです。新しい年金、つまり一元的で最低保障年金のある制度設計の大枠が出来ました。問題を解決するため、与野党を問わず案を持ち寄って国民会議で政策合意していくべきだと思います。

輸出を伸ばす！

雇用の為に、この地でモノ作りをして、輸出し資源代金を稼ぐ為の基盤作りを支援するのが政治の使命です。現在の日本は資源の乏しい国で、石油などを海外から輸入しなければなりません。その為に、輸入先を確保し、シーレーンを守り、代金として恒常的に毎年20兆円相当の外貨を稼ぐ必要があります。

それだけの外貨は「①まずモノ作りをし輸出をして大方の獲得、②サービス収益や投資収益で補完」することが現実的です。日本人のモノ作り力は強みであり、過去から持続してきた競争優位性だからです。

ですから日本は貿易立国であることを宿命づけられているといえるでしょう。雇用を守る為にも高度な経済連携を求めていくべきと考えます。愛媛は果樹農業県ですがかんきつを外に売っていく、打って出ていくことによってむしろ活路が拓け、地域が活性化するのはです。

格差を放置するのではなく、全ての格差をなくすのでもない、大きな政府にはしません。子どもを増やし、国力を高め、効果的に格差是正をする社会をめざしていこうではありませんか！

民主党はこれまで多くの離党者を出しました。「消費税上げる前にやることある。」主としてこのことを巡ってです。その気持ちも解らない訳ではありません。「やるべきこと」を党のなかで職責を通じて少しでも実現に向けて努力するか、外に出て別に道を探すかの違いです。私は、中からしっかり変えていく道を選びました。厳しい将来に向け議員が率先して、痛みを乗り越える。議員定数削減は必ず実行しなければなりません。

以上、何をするにしてもまずは私自身が大きな難関を乗り越えなければなりません。挑戦する私になにとぞお力を貸して頂きますようお願い申し上げます。

白石 洋一